地域創造学類カリキュラムマップ（環境共生コース専門科目）（平成29年度以降入学者用）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士（地域創造学）の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
①　知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝GIS技術、環境学習、環境再生医
②　技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③　思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④　関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤　態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	必修の学類共通科目を履修した後，各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また，演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に，調査実習，体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には，共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて，将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には，講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には，応用演習と実習により，コースの専門的知識と技術を修得し，4年次では，自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み，地域における調査とフィールドワークを通じて，地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により，現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果 知識・理解 理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	知識・理解 実践論・対処方法	技能・表現 調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35600	自然環境の再生とその動向Ⅰ	わが国の環境保全の将来について総合的に理解する。	環境保全，山間地，活性化，無居住化	2		1	○		◎	○		○		
35601	自然環境の再生とその動向Ⅱ			2		1	○		◎	○		○		
35602	環境学習・市民活動Ⅰ	環境再生医の資格取得に必要な環境学習・市民活動に関する基礎的な知識を習得する。	環境再生医、環境学習、市民運動	2	1(集中)		○	○	○				○	
35603	環境学習・市民活動Ⅱ			2	1(集中)		○	○	○				○	
35604	環境行政と関係法令Ⅰ	環境問題と環境政策の歴史の概略を理解し、今後の環境政策のあり方を考える。	環境政策、環境行政、環境法、環境問題	2	1		○	◎	○				○	
35605	環境行政と関係法令Ⅱ			2	1		○	◎	○				○	
35606	自然環境と社会Ⅰ	自然環境に対する人間社会の影響と，人間社会に対する自然環境の影響のそれぞれについて，基礎的な知識を習得する.	自然環境，社会環境，生態系	2		1	○	◎	○					○
35607	自然環境と社会Ⅱ			2		1	○	◎	○					○
35682	資源運用・循環論	「環境共生」への理解や意識を深めるにあたり，特に水産業，食料供給に関わる活動や問題を具体的事例として示しながら資源の捉え方やその利用と課題，人とのかかわりなどを取扱うことを通じて，地域資源の活用や食料供給，流通構造，循環型社会形成の概観を理解する。あわせて，地理学的な見方・手法を用いた課題考察について学び，今後の学習の基礎を習得する。	資源,持続可能,循環型社会,地理学,食料,水産業	2		2	◎				○		○	○
35683	環境共生基礎実習	環境共生に関わる野外実習・フィールドワークの基礎的経験を積み、資料等の分析に関する基礎を身につける。	野外実習、フィールドワーク、資料・試料分析	2	4					◎	○	○	○	
35614	農村計画論基礎演習Ⅰ	卒業研究に結びつく各種の研究手法、解析法、等を学ぶ。	実験計画、解析法、研究手法	2	1			○		◎		○	○	
35615	農村計画論基礎演習Ⅱ			2	1			○		◎		○	○	
35616	環境と経済基礎演習Ⅰ	地域と環境の関連について、主として経済学的に理解する思考方法の基礎を身につける。	環境と経済、環境と農林業、生物多様性、地域社会、コモンズ	2		1	○	○			○	○		
35617	環境と経済基礎演習Ⅱ			2		1	○	○			○	○		
35618	自然環境文献講読Ⅰ	自然環境そのもの，および自然環境と人間社会の関係性について理解するための基礎的な思考を，主として地理学的な観点から身につける.	自然環境，環境保全，防災，環境利用，地理学	2				○			○	◎	○	
35619	自然環境文献講読Ⅱ			2				○			○	◎	○	

地域創造学類カリキュラムマップ（環境共生コース専門科目）（平成29年度以降入学者用）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士（地域創造学）の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
①　知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝GIS技術、環境学習、環境再生医
②　技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③　思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④　関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤　態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	必修の学類共通科目を履修した後，各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また，演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に，調査実習，体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には，共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて，将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には，講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には，応用演習と実習により，コースの専門的知識と技術を修得し，4年次では，自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み，地域における調査とフィールドワークを通じて，地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により，現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							知識・理解			技能・表現				
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35620	資源活用・流通文献講読Ⅰ	地域資源の活用や流通・消費に関わるテーマ・素材の考察に取り組むことを通じて，資源活用や流通に関わる今日的な課題や,研究の方法や視点などを習得する．論文考察を通して，地理学的な見方や手法などを学び，文献の読み取り方,内容の整理方法やプレゼン技術,情報の分析方法,調査の方法や論文へのまとめ方などの技能習得を目指す．	資源活用,流通，消費，水産業・農業，地理学，論文考察，調査法	2	1			○		○	○	◎		
35621	資源活用・流通文献講読Ⅱ			2	1			○		○	○	◎		
35622	地誌学演習Ⅰ	観光開発やダム建設、原発建設など様々な形態の開発が地域社会にもたらしたものは何なのかという点について具体的な事例研究を題材にして考察できるようになる	開発、地域社会、社会環境	2		1	○	○				◎	○	
35623	地誌学演習Ⅱ			2		1	○	○				◎	○	
35660	森林・里山論基礎演習Ⅰ	環境の計画とマネジメントを巡る考え方、思想の概略を理解し、同時にその歴史や各アプローチの利点・限界点を理解できるようになる。	環境マネジメント	2			○		○			○	○	
35661	森林・里山論基礎演習Ⅱ			2			○		○			○	○	
35624	自然環境基礎論Ⅰ	日本と世界の自然環境・自然地理に関する基礎的な知識を取得する	自然地理学，地圏，気圏，水圏，生物圏	1	1		○	◎					○	○
35625	自然環境基礎論Ⅱ			1	1		○	◎					○	○
35626	環境思想Ⅰ	人と自然の関係、発展のあり方、社会的意思決定のあり方について、これまでの主要な考え方を理解し、現状分析に生かすことができるようになる。	環境、人間と自然、持続可能性	2	1		◎	○			○	◎	○	○
35627	環境思想Ⅱ			2	1		◎	○			○	◎	○	○
35628	農村計画論Ⅰ	農村計画と社会的な背景の有機的な構造について理解する。	農村，農村計画，土地利用計画，生活環境整備，農村環境，中山間地域，撤退の農村計画	2	1			◎	○		○	○		
35629	農村計画論Ⅱ			2	1			◎	○		○	○		
35630	環境と農村Ⅰ	生物多様性と人間社会の有機的な構造について理解する。	生物多様性，生態系サービス，里山・里海	2		1		◎	○		○	○		
35631	環境と農村Ⅱ			2		1		◎	○		○	○		
35632	環境教育論Ⅰ	生物多様性や里山を環境教育の題材として、環境教育とCEPAの活動について考え、どのような方法があるのか、を考える。	生物多様性、CEPA	2		1(集中)	○	○			○		◎	○
35633	環境教育論Ⅱ			2		1(集中)	○	○			○		◎	○
35689	環境教育基礎演習Ⅰ	具体的な課題を通じて、主体的に持続可能な社会の担い手を育成するためのチームワーク、リーダーシップについての理解を理解する	持続可能な社会、リーダーシップ	2			○							◎
35690	環境教育基礎演習Ⅱ			2			○							◎

地域創造学類カリキュラムマップ（環境共生コース専門科目）（平成29年度以降入学者用）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士（地域創造学）の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
①　知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝GIS技術、環境学習、環境再生医
②　技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③　思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④　関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤　態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	必修の学類共通科目を履修した後，各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また，演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に，調査実習，体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には，共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて，将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には，講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には，応用演習と実習により，コースの専門的知識と技術を修得し，4年次では，自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み，地域における調査とフィールドワークを通じて，地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により，現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果 知識・理解 理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	知識・理解 実践論・対処方法	技能・表現 調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35691	環境コミュニケーション論Ⅰ	組織レベルでの環境への取り組みの仕組みについての理解を深める。個別の仕組みに加え、環境負荷の把握と指標化、低減、情報発信を理解できる。	環境マネジメント	2			○	○		○			○	○
35692	環境コミュニケーション論Ⅱ			2			○	○		○			○	○
35693	環境共生応用演習	ゼミにおける発表・議論を通じ、地域と環境の共生の在り方について、より実践的に理解し、専門的に思考することができる。	環境共生、地域	3	4				○			◎		
35694	環境共生応用実習	現地調査、文献調査などを通じ、地域と環境の共生の在り方について、実態を理解し、分析的に検討・思考するとともに、その結果をレポートなどの形で他者へ正確に伝達できる技術を取得する。	調査、分析、レポート	3	4				○	◎	○	◎		
35672	環境政策論基礎演習Ⅰ	環境政策論に関する文献の読み方と、議論の深め方について、基礎的な能力を身につける。	地域環境政策、環境ガバナンス	2	1			○		◎		◎		
35673	環境政策論基礎演習Ⅱ			2	1			○		◎		◎		
35674	環境政策論Ⅰ	環境政策の政策過程の現状を適切に分析し、政策・合意形成の課題を理解し、改善の方向性を提示できるようになる。	環境政策、政策過程、合意形成	2		1		○	◎	◎		○		
35675	環境政策論Ⅱ			2		1		○	◎	◎		○		
35676	地域と水産業演習Ⅰ	地理学的研究による水産業に関わるテーマ・素材の考察に取り組むことを通じて，資源活用や流通に関わる今日的な課題や,研究の方法や視点などを習得する．また、学術論文・文献の読み取り方、整理方法やプレゼン技術,情報の分析方法,調査の方法や論文へのまとめ方などの技能習得を目指す．	水産業，生産，流通，消費，生活文化，地理学，論文考察，調査法	2		1		○		○	○	◎		
35677	地域と水産業演習Ⅱ			2		1		○		○	○	◎		
35678	地域体験実習A	地域における様々な環境共生と関わる活動や実践、研鑽の場に参加し、体験することを通じ、地域と環境に対する関心や環境を学ぶことの意欲を高めるとともに、複雑な地域の実態を理解し、地域と関わる上での態度を獲得する。	体験、活動、実践、研修	2				○					◎	○
35679	地域体験実習B			2				○					◎	○
35680	地域体験実習C			2				○					◎	○
35681	地域体験実習D			2				○					◎	○
35634	環境経済論Ⅰ	環境問題への経済学的アプローチの基礎を学び、特に自然資本と人工資本の関係から環境問題を理解する視点を身につける。	環境経済学入門、自然資本と人工資本	2～4　偶数年度開講			○	◎				○		
35635	環境経済論Ⅱ			2～4　偶数年度開講			○	◎				○		

地域創造学類カリキュラムマップ（環境共生コース専門科目）（平成29年度以降入学者用）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士（地域創造学）の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
①　知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝GIS技術、環境学習、環境再生医
②　技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③　思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④　関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤　態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	必修の学類共通科目を履修した後，各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また，演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に，調査実習，体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には，共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて，将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には，講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には，応用演習と実習により，コースの専門的知識と技術を修得し，4年次では，自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み，地域における調査とフィールドワークを通じて，地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により，現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【○】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果 知識・理解 理念目標・社会的責任	知識・理解 現状理解・把握	知識・理解 実践論・対処方法	技能・表現 調査・分析方法	技能・表現 伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35636	農業経済論Ⅰ	戦後日本の農業農村の概史から農業産業としての農業が抱える様々な課題に関する理解を深める。	農業経済学入門、農業技術、農村、都市と農村の対立	2～4　奇数年度開講	1		○	◎				○		
35637	農業経済論Ⅱ			2～4　奇数年度開講	1		○	◎				○		
35638	環境経済政策論Ⅰ	今日の代表的な環境問題の概要を理解し、法的市場的環境手法を学ぶ。	環境政策、循環型社会、持続可能な社会	2～4　偶数年度開講			◎	○				○		
35639	環境経済政策論Ⅱ			2～4　偶数年度開講			◎	○				○		
35640	農業政策論Ⅰ	農業をめぐる諸問題や政策を批判的に検討できるよう、農業と農山村について理解を深める。	日本農業事情、農業政策、環境、	2～4　奇数年度開講		1	◎	○				○		
35641	農業政策論Ⅱ			2～4　奇数年度開講		1	◎	○				○		
35642	自然環境論A	自然環境について、主に環境変動と生物分布に着目しながら、全球スケールから微地形スケールの様々なスケールにおいて理解する	環境変動、自然史、地生態	2		1		◎					○	
35643	自然環境論B			2		1		◎					○	
35684	防災・減災と地理学	自然災害と地理的環境との関係性について理解する.	自然地理学，防災，自然災害，土地条件，ハザードマップ	2		2	○	◎					○	○
35685	流通・消費論	様々な地域に存在する多様な資源が，複雑な・多岐に渡る地域や関係者，システムを通して流通・普及する様子に注目し，需要者に消費されるまでの過程や構造と，そこで取り組まれている工夫や残されている課題について考察することができるようになる。地理学的な研究に注目することで、「地域」を見つめる大切さへの意識を高め，研究の視点や手法についても理解を深めることで，将来各自が行う卒業論文での地域調査に必要なスキルの習得の足がかりとする。	流通・消費，資源活用，フードシステム，四定条件，地理学	2	2			◎		○		○	○	
35686	地域資源活用論	モノや自然環境，人材，生活文化や歴史など，地域が有する資源を活用し，より豊かな生活創出，優位でかつ持続的な産業活動や地域形成，教育・文化的活動，マーケティングやブランド化，認知行動などを検討していくための考え方，取り組み方や，その際に課題となる点などを学ぶ。地理学的研究の特徴や手法を先行研究を用いた事例紹介から学び，卒論作成に必要な地域を観察する技能を身につける。地域資源についてパンフレット・紹介マップを実際に作成し，報告・検討をする機会を通じて、標的市場や人々に効果的に情報を伝える技能を身につける。	地域,資源,産業・経済，生活と文化,持続可能な利用・方法・しくみ,地理学	2		2		○		○	○	◎		
35687	社会環境論Ⅰ	現代社会における自然と社会の関係に関する人文地理学の基礎的な理論と概念を理解できるようになることを目標とする。	自然と社会、人文地理学	2～4　奇数年度開講				○		○		◎		
35688	社会環境論Ⅱ			2～4　奇数年度開講				○		○		◎		

地域創造学類カリキュラムマップ（環境共生コース専門科目）（平成29年度以降入学者用）

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）	地域創造学類では、現実の社会から提起される諸問題に目を向け、それを分析できる能力の育成を行う。そして、誰もが生き生きと安心して暮らせる社会をつくるために、地域の資源と特徴を生かし、質の高い個性ある地域づくりに喜びと責任をもって参加できる人材を育成する。この人材育成目標に到達するために、学類共通科目の学習成果を上げ、かつ環境共生コースの学習成果を上げた者に対して、学士（地域創造学）の学位を授与する。	
環境共生コースの学習効果		
①　知識・理解	人間の生活基盤となる地域とその諸問題を理解するための専門的知識を修得している。	
	理念目標・社会的責任	対象となる地域課題の理念・目標や社会的責任について理解している。＝持続可能な社会の実現、環境思想
	現状理解・把握	対象となる地域課題の現状理解や把握について理解している。＝食料の生産・流通・消費、自然災害と防災、里山の保全、環境資源の管理
	実践論・対処方法	対象となる地域課題の実践論や対処方法について理解している。＝GIS技術、環境学習、環境再生医
②　技能・表現	調査・分析方法	地域課題の解決に必要な調査や分析の方法を修得している。
	伝達技能	他者の声に耳を傾け、自らの考えを的確に伝達するコミュニケーション能力とコーディネーション能力を身につけている。
③　思考・判断	地域や社会の諸問題を生活の諸側面から多角的に分析し考察できる。	
④　関心・意欲	地域の諸問題を自ら探求し、よりよい地域の創造に貢献する意欲を持っている。	
⑤　態度	地域で暮らすすべての人に共感と尊敬を持って接することができる。	

地域創造学類のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）	必修の学類共通科目を履修した後，各コースで専門テーマを深く学べるように編成する。また，演習や論文指導でのきめ細かな少人数教育を基本に，調査実習，体験実習など現場での実習教育を重視する。 1年次には，共通教育科目と地域創造学類共通科目を通じて，将来の地域社会の維持と発展を担うための地域創造学の基礎を学ぶ。2年次には，講義と演習科目から各コースの基礎を学ぶ。3年次には，応用演習と実習により，コースの専門的知識と技術を修得し，4年次では，自ら課題を発見し解決するための卒業研究に取り組み，地域における調査とフィールドワークを通じて，地域が求める課題に実践的かつ総合的に取り組めるようになっている。少人数教育によるきめ細かな学習支援により，現場での実践力を確実に修得できるようにカリキュラムが編成されている。

【◎】は、授業の中で重点的に取り扱われ、特に高い学習成果が期待される。
【〇】は、授業の中で取り扱われ、高い学習成果が期待される。

番号	授業科目名	学生の学習目標	授業理解のキーワード	学年	前期	後期	学習成果							
							知識・理解			技能・表現				
							理念目標・社会的責任	現状理解・把握	実践論・対処方法	調査・分析方法	伝達技能	思考・判断	関心・意欲	態度
35400	卒業演習	各自の関心・テーマを探究し卒業論文を執筆するための研究・実験・調査等を行うとともに、論文執筆の技法を身につける。	卒業論文、論文執筆の技法	4	4		◎			◎	◎		◎	
35401	卒業研究	各自の関心・テーマを探究し大学での学習の集大成となる卒業論文を執筆する。	卒業論文	4	6			◎	◎			◎		◎